

3. 若年認知症の社会参加を支援するアセスメント手法およびコーディネート手法案について

竹内さをり（甲南女子大学看護リハビリテーション学部）

1. 研究目的

本研究の目的は、若年認知症の人の社会参加を支援する方法を体系的に明らかにし、支援がどこの地域でも行えるようにすることである。

2008年7月、厚生労働省による「認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト」の中で、若年認知症の人と家族へのオーダーメイドの支援体制作りをすすめることが提案された。そのひとつとして、社会活動の場作りがあげられているが、関連する報告として、就労型活動¹⁾、家族会²⁾、介護保険制度上のサービス³⁾による支援がある。我々のこれまでの研究では、若年認知症本人の社会参加のためには、相談機能があること、社会参加の場でのアセスメントが行えること、介護保険制度など既存のサービスとの連携が必要であり、コーディネートやアセスメント機能が重要であることが明らかになっている^{4) 5)}。一方で、若年認知症の人に対するコーディネートの方法やアセスメント項目等は明らかになっておらず、社会参加を支援する体系的な方法を明確にした研究はまだない。

先のプロジェクトでは、地域包括支援センターに配置された認知症連携担当者がコーディネートの役割を担うよう位置づけされているが、若年認知症の支援経験のある人はほとんどおらず、方法論の明らかになってない中で、本人や家族が求める支援が提供されることは難しいと考える。

本研究は、これまでも若年認知症者に対する活動の支援を行っている家族会や社会活動のフィールド、協力者のもとで、体系的な方法を明確にするものであり、アトワークなどの具体的な社会参加の場を通じてコーディネートの方法やアセスメントの項目等を明らかにするものである。

2. 研究方法

本研究における研究方法は以下のとおりである。

本研究は二年計画であり、既存の相談活動や社会参加の場の提供を行っている特定非営利活動法人認知症の人とみんなのサポートセンターに相談の集約およびプランの立案、社会活動の場の運営を委託し、アセスメント項目、コーディネート手法の集積を行う。また、認知症連携担当者を含むワーキング会議を開催し、具体的手法を決定。大阪府下、兵庫県下の認知症専門医、若年認知症ケアの専門家の協力を得て、手法の妥当性の検討を行う。さらには大阪府、兵庫県福祉行政担当者からの見解を基に運用面、実用化への検討も実施する。

以下に、二年間の研究計画を提示する。

平成22年度（一年目）；大阪府下、兵庫県下の認知症専門医、若年認知症ケアの専門家による委員で構成する会議を開き、本研究の実践方法を報告、意見を聴取する。若年認知症者の相談窓口となる市福祉関係機関や認知症専門医の協力により介護保険制度等の既存サービスを利用できない、利用がスムーズにいかないケースを抽出、対象者の紹介を得る。

特定非営利活動法人認知症の人とみんなのサポートセンターによる既存の相談活動や社会活動の場を活用し、

- ① 若年認知症本人、家族の状態をアセスメントし、ケアプランを一緒に作成。
- ② 既存の活動（アートワーク、本人ボランティア、家族会など）や他のサービスを通じて支援を実施。
- ③ ①～②のプロセスの記録、本人、家族の状態のアセスメント内容をデータに集積し、そのコーディネート手法、アセスメント項目を分析する。

分析したコーディネート手法、アセスメント項目について、認知症連携担当者を交えたワーキング会議にて検討、手法案を作成する。

平成23年度（二年目）；一年目に検討、作成したコーディネート手法、アセスメント項目原案を複数の認知症連携担当者（大阪府内）の協力を得て試用する。協力者である認知症連携担当者は、対象となる若年認知症者に対するアセスメントを実施し、社会活動の場を活用、若年認知症者への支援を行う。さらに、社会活動の中で得た結果、経過を収集しコーディネート手法を展開する。これら一連の認知症連携担当者の関与の結果をワーキング会議にて検討し、実用的な手法を決定する。決定したアセスメント項目、コーディネート手法を大阪府下、兵庫県下の認知症連携担当者を対象とした研修会にて周知し、実践的運用への展開方法を提示する。さらに運用面、実用面の検証に対しては、大阪府、兵庫県福祉行政担当者からのアドバイスを基に実施する。
(倫理面への配慮)

本研究では、①介護保険制度等の既存サービスを利用できない、利用がスムーズにいかないケースを抽出、研究協力を依頼、②協力の得られた若年認知症本人、家族の状態をアセスメントし、ケアプランを作成、③既存の活動や他のサービスを通じて介入支援を実施し経過および結果を記録する。これら臨床・疫学研究に関しては、甲南女子大学の倫理審査委員会の審査・承認のもと実施する。研究対象者の個人情報（氏名）およびそのアセスメント表は外部とは独立したコンピューターで厳重に情報管理し、情報管理するとともに、研究者しか知らないパスワードを設定するなどの、情報漏洩に関する安全対策を講じる。

3. 研究結果

1) 研究説明・意見交換会議の開催

平成22年7月に若年認知症ケアの専門家による委員で構成する会議を開催し、本研究

についての意見を聴取、関係機関への周知および実施方法を決定。その意見を基に、相談窓口への周知を行った。

2) アセスメント、支援プランの立案、支援の実施

若年認知症の相談窓口の協力を得て、サービスの利用がスムーズにいかない若年認知症者（平成22年度対応事例および過去対応事例）15例を抽出し、若年認知症者本人、家族の状態をアセスメントし、ケアプランを作成した。

アセスメント内容は、本人については、個人因子、診断と経過、心身機能、日常生活活動（以下、ADL）状況、日常生活関連動作（以下、IADL）状況、望み、サービス利用状況などであり、家族については、本人に対する思い、介助量、個人因子などであった。

ケアプランは本人、家族の希望を把握し、ニーズの抽出、長期・短期目標および支援内容を決定した。

決定したケアプランをもとに、既存の活動（特定非営利活動法人認知症の人とみんなのサポートセンター、若年認知症の家族の会（愛都の会））や他のサービスを通じた支援を実施し、活動への取り組み状況および相談の内容を記録した。

3) アセスメント、コーディネート内容の分析

本研究への参加に同意を得た若年認知症者15例（男性4名、女性11名、平均年齢 58.5歳、アルツハイマー型認知症（以下、AD）13名、前頭側頭型認知症（以下、FTD）1名、その他1名）について、経過の記録を元に本人、家族について行ったアセスメント、コーディネート内容を抽出し、活動継続の要素、社会サービスにつながる要素について検討を行った。その結果からアセスメントに必要な要素を示すシートとコーディネート方法の検討に使用するシートを作成した。

この段階で、A) 現段階のステージをチェックするシート、B) 社会資源活用の状況を把握するシート、C) 社会資源につながる要因を分析するシート、D) 社会資源利用の可能性が低い場合のサポート方法の4種類を作成した。

4) 手法案検討会議の開催

作成したシートを認知症連携担当者に試用いただき、意見を収集し一部を改編した。その後、各シートについて有識者を交えて検討し、手法案を作成した。

5) 手法案

手法案として以下のシートを作成した。

A シート) 現状を知るシート（資料3-1）

若年認知症者または家族から相談を受けた際に用い、本人が発症後のどの段階にあるのかを知り、支援内容を検討するために用いる。

Bシート) 社会資源活用について（資料3-2）

若年認知症者が活用している社会資源を知る目的で使用する。相談対応時にAシートと一緒に聞き取りを行う。

このシートを活用することで相談対応に当たる認知症連携担当者が若年認知症の方

が利用できる社会資源を知ることができる。さらにBシートに示す各資源の解説（資料3-3）も作成した。

Cシート）つながるシート

Aシートにおいて「3. 介護保険サービスは必要でない状況の1）家において特に困っていないととらえている」から「5. 介護保険サービスが必要な次のような状況がある」段階と判断された場合に活用する。

Cシートは、本研究におけるケースの結果から、サービスを活用するうえで本人および家族に必要な要素を抽出し作成しており、各項目において5の項目が多いほど、サービス利用がスムーズに行き、1となった項目が阻害因子と考える。

Cシートにおいてサービス利用の阻害因子となっていると評価された項目に対して、支援を行う。

また、Cシートは若年認知症の方が社会活動の場に参加し、何らかの作業などを行いながら把握するもの（Cシート-①：資料3-4）と相談窓口などの面接の状況から把握するもの（Cシート-②：資料3-5）を作成した。

これら2種類のCシートを作成したのは、若年認知症の方の支援方法を検討するには、面接だけでなく、できれば社会活動の場で作業などを通じて本人や家族の状態を把握することが重要であると考えたためである。

相談機関の周辺に若年認知症者が活用できる社会資源の場がある場合、その場を活用しアセスメントすることができるが、無い場合には、通常の相談窓口で実施することになる。そのため通常の相談窓口でも対応できるシートを作成した。

Dシート）社会資源利用の可能性が低い場合の各支援方法（資料3-6）

Cシートにおいて阻害因子となる項目を明確にし、その因子に対するサポート方法を示したものである。

認知症連携担当者はAからDシートを資料3-7に示すシート活用手順に沿いながら利用し、若年認知症者とその家族に対するアセスメントおよびコーディネートを実施する。

4. まとめ

本年度開発した手法案を用いて、平成23年度は複数の認知症連携担当者が若年認知症者と家族に対するアセスメント、コーディネートを実施する。その結果を検証し、一定の手法を完成する所存である。

（参考文献）

- 1) 比留間ちづ子他：ジョイントにおける就労形活動・地域型活動の効果と若年認知症への支援の課題, 日本認知症ケア学会, 8(2), 255, 2009.
- 2) 勝野とわ子他：地域における若年認知症者と介護家族のための実践, 日本認知症ケア学会, 7(2), 167, 2008.

- 3) 駒井由起子他：若年認知症専門デイサービスにおける中間施設の役割,日本認知症ケア学会,8(2),250,2009.
- 4) 竹内さをり他：若年認知症の人と家族のための社会資源開発,日本認知症ケア学会,7(2),412,2008.
- 5) 沖田裕子,竹内さをり他：若年認知症の社会的支援策に関する研究事業報告書,82,2008.

Aシート)現状を知るシート

記入日: 年 月 日

いつ診断を受けたかなど現在の状況と各項目に合わせ、必要性(担当者が必要と考える)、意向(本人、家族の意向)がどうか、チェックしてみましょう。

氏名: _____

生年月日: 年 月 日生

状 況	必要性	意向	備 考
1. 診断の状況 1) 診断名が明確でない 2) 診断が明確になった	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	→適切な医療機関へつなぐ →障害年金、障害者福祉手帳の取得 →自立支援医療
2. 就労・家事・育児・介護の状況 1) 仕事を続けている 2) 仕事を辞めるように言われている 3) 再就職(できる仕事に移る) 4) 仕事をさがす 5) 再就職(福祉的就労) 6) 就労を全てあきらめる 7) 家事・育児・介護などが困難になってきている	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	→就労継続の支援 →就労継続の支援 →再就職の支援 →再就職の支援 →福祉的就労支援
3. 介護保険サービスは必要でない状況 1) 家にいて、特に困っていないととらえている 介護保険を利用する状況ではない 2) 介護保険を利用する状況ではないが、社会参加の場が必要	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	→移動支援の利用 →Cシートを活用してみましょう
4. 障害者福祉サービスが必要な状況 ガイドヘルパーの利用により活動範囲が広がり、介護負担軽減	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	直接的サービスの利用可能性
5. 介護保険サービスが必要な次のような状況がある 1) 一人暮らし 2) ひとりで留守番していて食事を食べない 3) 知らない間に怪我をしている 4) 外出してひとりで帰れない 5) トイレがひとりでうまくできなくなる 6) 介護者といると萎縮してしまう 7) 介護者がつかれている 8) できることがあるのに介護者が上手くサポートできない 9) 服薬確認の必要性がある	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	→Cシートを活用してみましょう 直接的サービスの利用可能性 ↓ 利用が困難な場合は Dシートを活用してみましょう
6. 入所、入院が必要な状況 1) 入所 2) 入院 体が衰弱している BPSDが激しい	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	

Bシート) 社会資源活用について

これから活用を促進したいものを明確にしましょう。

現在活用しているものに○をつけ、利用内容や利用していない場合はその理由や予定を記入しましょう。

	社会資源	活用○	利用内容、利用していない理由、活用予定など	
相談先	地域包括支援センター			
	社会福祉協議会			
	行政(障害福祉・高齢福祉の窓口)			
	医療	病院		
		認知症疾患医療センター		
	保健センター・保健所			
	在宅介護支援センター			
	介護サービス事業所			
	若年認知症の家族会			
地域の介護者家族会				
就労支援	ハローワーク			
	障害者就業・生活支援センター			
	その他			
経済支援	傷病手当			
	失業保険			
	障害年金			
	特定疾患の公費負担			
	生活保護			
自立支援	自立支援医療			
	精神障害者保健福祉手帳			
	身体障害者手帳			
	移動支援			
	就労支援			
	居宅介護			
	短期入所			
その他				
介護保険	介護保険の申請・認定結果			
	訪問介護			
	訪問看護			
	通所介護(デイサービス、デイケア)			
	ショートステイ			
	小規模多機能			
	その他の介護保険制度			
	日常生活自立支援事業・成年後見制度			

社会資源解説

◆就労支援

<障害者就業・生活支援センター>

就業支援（相談、準備、就職活動、就業継続）、生活面での支援（日常生活、地域生活への助言など）、雇用管理についての事業所に対する助言を行っています。大阪府内には17か所、大阪市内には中央センターと6か所の地域就業支援センターがあります。

◆経済支援

<傷病手当>

病気などのために仕事ができなくなった健康保険または共済組合保険者とその家族の生活保障をしてくれる制度です。本人が病気のため働くことができないため会社を休んだ日が連続して3日間あり、その期間会社から報酬を受け取ることができない場合、支給されます。期間は1年半です。

問い合わせ先：職場の労務担当など。

※市町村国民健康保険（自営業などの方）には傷病手当の制度はありません。

<失業保険>

再就職を目指す人（仕事を探せる人）が対象。

窓口：居住地のハローワーク。

<障害年金>

障害年金には以下の3つの年金があります。

- ①障害基礎年金（国民年金に加入している人）1級、2級
 - ②障害厚生年金（厚生年金に加入している人）1級、2級、3級
 - ③障害共済年金（共済年金に加入している人）1級、2級、3級
- ②、③の1級、2級の方は①の障害基礎年金が加算されます。

いずれも初診日に加入していた年金によって支給される年金が決まります。

初診から1年6か月経過後、申請できます。

窓口：障害基礎年金は市町村の障害年金担当。その他は各年金事務所。

◆自立支援

<精神障害者保健福祉手帳>

精神障害を持つ人（認知症を含む）が、一定の障害にあることを証明するものです。手帳を持っていることにより様々な支援が受けられます。初診から6か月で申請可能。1級、2級、3級があります。

窓口：市町村役所。

支援内容：税金の控除・優遇（所得税、住民税、自動車税、自動車取得税など）、公共施設の観覧・利用料の本人、介護者無料もしくは減額、NHK受信料減免などが適用。

<自立支援医療>

精神疾患（認知症を含む）のため、通院による治療を受ける場合は、通院医療費（薬代等も含む）の負担が軽減され、原則1割の負担になります。通院、調剤、往診、デイケア、訪問看護も対象です。

窓口：市町村役所。

<移動支援>

障害者自立支援法に基づく地域生活支援事業の一つです。事業所よりガイドヘルパーが派遣され、外出の同行支援を行います。費用は原則として1割負担、ガイドヘルパー負担分の交通費、施設使用料など。内容は自治体によって異なりますが、作業所への通所、買い物、外食など社会参加、余暇支援を目的としています。

窓口：市町村保健福祉担当。

<就労支援>

障害者自立支援法に基づく障害福祉サービスの訓練等給付のサービスです。就労移行支援（一般企業等への就労を希望する人）、就労継続支援（一般企業等での就労が困難な人に働く場を提供するとともに、訓練を行う）などがあります。支給決定を受けてから利用ができます。

窓口：市町村役所。

<居宅介護>

障害者自立支援法に基づく障害福祉サービスの介護給付のサービスです。ヘルパーが自宅を訪問して介護などを行います。支給決定を受けてから利用ができます。

窓口：市町村役所。

<短期入所>

障害者自立支援法に基づく障害福祉サービスの介護給付のサービスです。自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含めて施設を利用することができます。支給決定を受けてから利用ができます。

窓口：市町村役所

Cシート) ① つながるシート(社会サービス利用につながる可能性を検討するシート):社会活動利用版

氏名: _____

あてはまる項目が多いほど、デイサービスなどの利用の可能性が高いと考えられます。

低い項目の原因を考え、支援することによって、デイサービスなど利用の可能性を上げていきましょう。

当てはまる数字に○をつけましょう。

5:あてはまる 4:だいたいあてはまる 3:どちらでもない 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない

家族

	項目	大	←社会資源利用可能性→	小
1	サービス利用に対する積極性	あり	5・4・3・2・1	なし
2	制度の手続き力	あり	5・4・3・2・1	なし
3	時間の余裕	あり	5・4・3・2・1	なし
4	家族の抱え込みがない	抱え込みがない	5・4・3・2・1	抱え込んでいる
5	家族の困り具合の認識	困っている	5・4・3・2・1	なんとかやっている
6	本人の喜びへの共感	感じられる	5・4・3・2・1	感じられない
7	周囲からのサービス利用への後押し	あり	5・4・3・2・1	なし
8	告知について	本人に言える	5・4・3・2・1	本人に言えない
9	家族会への参加	参加	5・4・3・2・1	不参加
10	思考の整理や決断	整理できる	5・4・3・2・1	混乱
11	他者にゆだねられるか	ゆだねられる	5・4・3・2・1	ゆだねられない
12	世間体や外聞を気にする	気にしていない	5・4・3・2・1	気にする
13	地域の人に公表している	している	5・4・3・2・1	していない
14	経済的余裕	あり	5・4・3・2・1	なし

本人

	項目	大	←社会資源利用可能性→	小
1	家からの外出	好む	5・4・3・2・1	好まない
2	家族がそばにいても落ち着く	落ち着いている	5・4・3・2・1	落ち着かない
3	皆と一緒にの飲食	できる	5・4・3・2・1	できない
4	トイレ(介助しても)	行ける	5・4・3・2・1	我慢
5	希望を言える	希望を言える	5・4・3・2・1	希望が言えない
6	できないことを隠さない	隠さない	5・4・3・2・1	隠す
7	人に頼れる	あり	5・4・3・2・1	なし
8	意欲	あり	5・4・3・2・1	なし
9	自分なりに利用する意味がある	あり	5・4・3・2・1	なし
10	本人が気に入らない	気に入る	5・4・3・2・1	気に入らない
11	自分に合っていると感じている	あり	5・4・3・2・1	なし
12	集中できる	集中できる	5・4・3・2・1	集中できない
13	楽しめる	楽しめる	5・4・3・2・1	楽しめない
14	笑顔などの良い表情	あり	5・4・3・2・1	なし
15	ポジティブな感想(満足感)	あり	5・4・3・2・1	なし
16	緊張し動作のぎこちなさ	なし	5・4・3・2・1	あり

Cシート) - ② つながるシート(社会サービス利用につながる可能性を検討するシート): 相談対応版

氏名: _____

あてはまる項目が多いほど、デイサービスなどの利用の可能性が高いと考えられます。

低い項目の原因を考え、支援することによって、デイサービスなど利用の可能性を上げていきましょう。

当てはまる数字に○をつけましょう。

5:あてはまる 4:だいたいあてはまる 3:どちらでもない 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない

家族

	項目	大	←社会資源利用可能性→	小
1	サービス利用に対する積極性	あり	5・4・3・2・1	なし
2	制度の手続き力	あり	5・4・3・2・1	なし
3	時間の余裕	あり	5・4・3・2・1	なし
4	家族の抱え込みがない	抱え込みがない	5・4・3・2・1	抱え込んでいる
5	家族の困り具合の認識	困っている	5・4・3・2・1	なんとかやっている
6	本人の喜びへの共感	感じられる	5・4・3・2・1	感じられない
7	周囲からのサービス利用への後押し	あり	5・4・3・2・1	なし
8	告知について	本人に言える	5・4・3・2・1	本人に言えない
9	家族会への参加	参加	5・4・3・2・1	不参加
10	思考の整理や決断	整理できる	5・4・3・2・1	混乱
11	他者にゆだねられるか	ゆだねられる	5・4・3・2・1	ゆだねられない
12	世間体や外聞を気にする	気にしていない	5・4・3・2・1	気にする
13	地域の人に公表している	している	5・4・3・2・1	していない
14	経済的余裕	あり	5・4・3・2・1	なし

本人

	項目	大	←社会資源利用可能性→	小
1	家からの外出	好む	5・4・3・2・1	好まない
2	家族がそばにいても落ち着く	落ち着いている	5・4・3・2・1	落ち着かない
3	皆と一緒にの飲食	できる	5・4・3・2・1	できない
4	トイレ(介助しても)	行ける	5・4・3・2・1	我慢
5	希望を言える	希望を言える	5・4・3・2・1	希望が言えない
6	できないことを隠さない	隠さない	5・4・3・2・1	隠す
7	人に頼れる	あり	5・4・3・2・1	なし
8	意欲	あり	5・4・3・2・1	なし
9	自分なりに利用する意味がある	あり	5・4・3・2・1	なし

気づき

今後の方向性

D シート) 社会資源利用の可能性が低い場合のサポート(家族)

C シートで社会資源利用の可能性が低い場合は、次のようなサポートを考えてみましょう。

家族

	項目	項目の評価が低い時のサポート
1	サービス利用に対する積極性	支援者が話を聞き、サービス利用に対する具体的なイメージが持てるよう支援する。
2	制度の手続き力	制度利用の代行や同行
3	時間の余裕	なぜ、時間の余裕がないのかを明らかにする。時間の余裕を作るよう支援する(ガイドヘルパーの利用、代行、必要性の説明)
4	家族の抱え込み	本人の力を伝える。サービス事業所の力を信じられるようにする。家族が自分でなくても本人が安心できると思ってもらえるようにする。
5	家族の困り具合の認識	家族の現実認識を促すように話す。「疲れていますよ」と言っても認識できない人が多い。「疲れている」と見られたくない人も多い。「頑張っている」と認めながら、自分が倒れないように促す。自分から「大変」と言えるようになるしないと、周りから言われても認められれない。家族会の参加を促す。支援者があせらずに話を聞く。
6	本人の喜びへの共感	本人の喜びを伝えたり、笑顔を見せもらう
7	周囲からのサービス利用への後押し	他の家族への働きかけ。家族会への参加など社会参加の場で本人がサービスを利用するとどんな風になるのかを見せもらう。
8	告知について	告知を受けている他の本人の様子を見せもらう。本人に活動の場に参加してもらう。
9	家族会への参加	家族会と一緒にいく。いろいろなタイプの家族会を紹介する。
10	思考の整理や決断	話を聞いて、一緒に整理していく。少し先の本人の状態を予測して話す。
11	他者にゆだねられるか	しばらくそばに付き添い、徐々に離れていってもらう。他の本人と一緒に活動する姿を見せもらう。
12	世間体や外聞を気にする。	頭から否定しないで、気持を受け止める。秘密が守られ、安心できることを知ってもらう。同じ気持ちだった他の家族の話を聞いてもらう。
13	地域の人に公表している	社会活動の場や家族会などへの参加を機に本人が他者と触れ合い、外出する機会を増やしていく。
14	経済的余裕	経済的支援につながる社会資源の活用について検討する。

Dシート)社会資源利用の可能性が低い場合のサポート(本人)

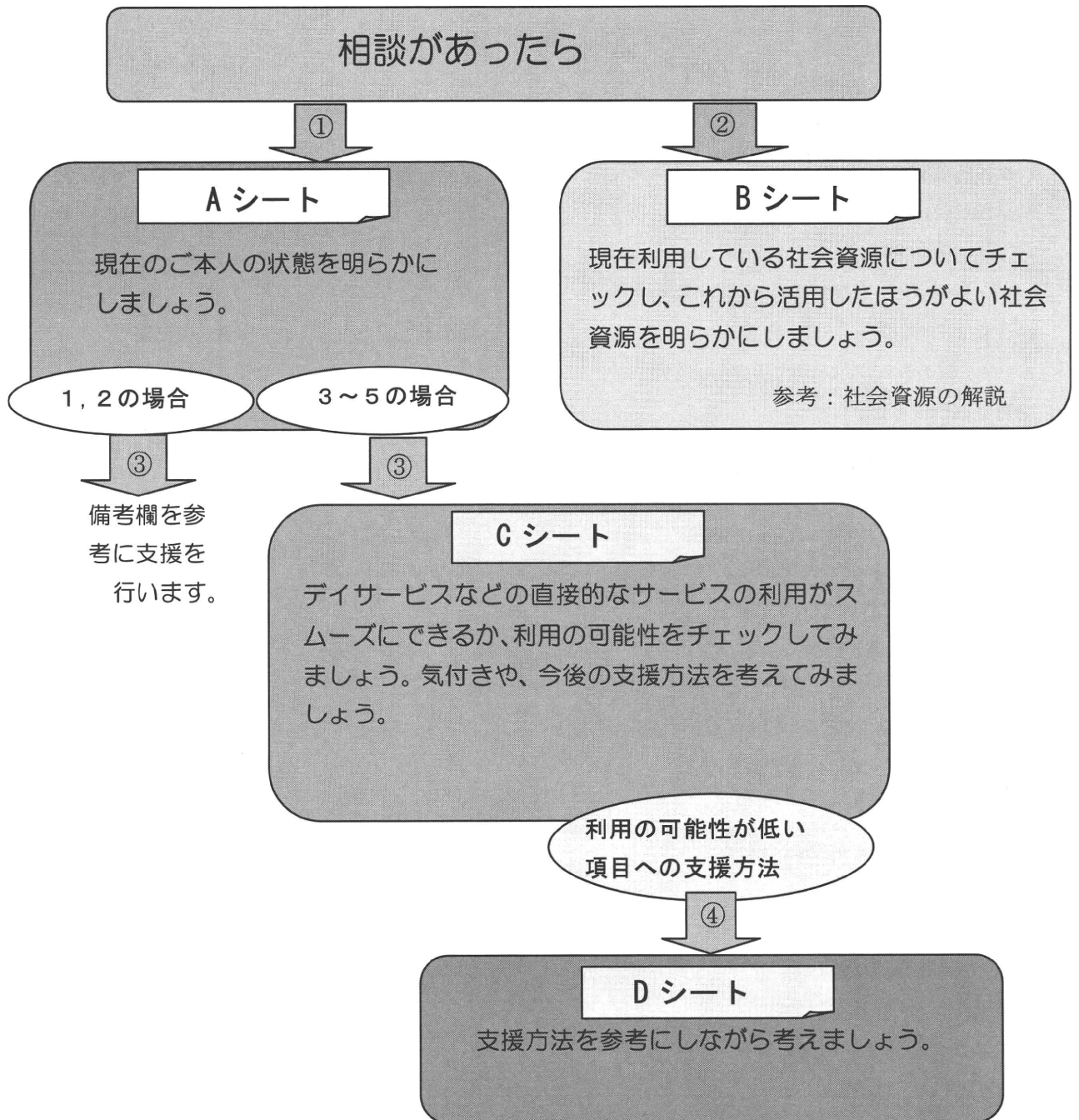
Cシートで社会資源利用の可能性が低い場合は、次のようなサポートを考えてみましょう。

本人

項目	項目の評価が低い時のサポート
1 家からの外出	本人の好みを聞き、外出の機会を作り楽しい経験をしてもらえるようにする。
2 家族がそばにいない状態	除々に慣れもらおう機会を作る。家族には本人が気付かないうちに別の場所に離れる、帰ってもらうなどする。
3 皆と一緒にの飲食	緊張をほぐす。落ち着ける場になるよう、本人が失敗しないよう、できることをできるように支援する。
4 トイレ(介助しても)	緊張をほぐす。落ち着ける場になるよう、本人が失敗しないよう、できることをできるように支援する。
5 希望を言える	希望を時間をかけても聞く。選択肢を提示する。
6 できないことを隠さない	隠さなくてもよいことを繰り返し伝える。できることもあることを伝える。できないと言っている本人を肯定する。
7 人に頼れる	頼ってもらいことを伝える。本人を頼ってみる。
8 意欲	できることをしてもらい、できたことを本人に伝える。一緒に振りかえる。
9 自分なりに利用する意味がある	サービスに対してどのようなイメージを持っているのか、時間をかけても聞いていく。
10 本人が気に入らない	気に入らない理由を考え、気に入る活動への変更や対応策を検討する。
11 自分に合っていると感じている	合わない点を考え、合う活動への変更や対応策を検討する。
12 集中できる	集中できる環境や対応を工夫する。
13 楽しめる	好みを探り、楽しめる内容へ近づけるよう工夫したり、変更する。
14 笑顔などの良い表情	緊張をほぐし、落ち着ける環境への配慮を行う。他参加者とのなじみの関係性を築く。
15 ポジティブな感想(満足感)	思っていること、感じていることを言える場を作る。まずは1対1の関係において問いかけ、次第に全体の中で問いかけ、話す機会をもつ。
16 緊張し動作のきこちなさ	緊張をほぐし、落ち着ける環境への配慮を行う。他参加者とのなじみの関係性を築く。

若年認知症に対する相談にあたって
シートの活用手順

若年認知症の人や家族を支援する指標として以下のシートを使います。



4. 事例報告1：手法案を用いた支援方法について

沖田裕子（特定非営利活動法人認知症の人とみんなのサポートセンター）

若年認知症の事例（K氏）について、手法案を用いた支援を示す。

A シート)現状を知るシート

記入日:支援前

いつ診断を受けたかなど現在の状況と各項目に合わせ、必要性(担当が必要と考える)、意向(本人、家族の意向)がどうか、チェックしてみましょう。

状 況	必要 性	意 向	備 考
1. 診断の状況 1) 診断名が明確でない 2) 診断が明確になった	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	→適切な医療機関へつなぐ →障害年金、障害者福祉手帳の取得 →自立支援医療
2. 就労・家事・育児・介護の状況 1) 仕事を続けている 2) 仕事を辞めるように言われている 3) 再就職(できる仕事に移る) 4) 仕事をさがす 5) 再就職(福祉的就労) 6) 就労を全てあきらめる 7) 家事・育児・介護などが困難になってきている	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	→就労継続の支援 →就労継続の支援 →再就職の支援 →再就職の支援 →福祉的就労支援
3. 介護保険サービスは必要でない状況 1) 家にいて、特に困っていないとらえている 介護保険を利用する状況ではない 2) 介護保険を利用する状況ではないが、社会参加の場が必要	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	→移動支援の利用 →Cシートを活用してみましょう 直接的サービスの利用可能性
4. 障害者福祉サービスが必要な状況 ガイドヘルパーの利用により活動範囲が広がり、介護負担軽減	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
5. 介護保険サービスが必要な次のような状況がある 1) 一人暮らし 2) ひとりで留守番していて食事を食べない 3) 知らない間に怪我をしている 4) 外出してひとりで帰れない 5) トイレがひとりでうまくできなくなる 6) 介護者といると萎縮してしまう 7) 介護者がかかっている 8) できることがあるのに介護者が上手くサポートできない 9) 服薬確認の必要性がある	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	→Cシートを活用してみましょう 直接的サービスの利用可能性 ↓ 利用が困難な場合は Dシートを活用してみましょう

Bシート) 社会資源活用について

初回相談対応時

これから活用を促進したいものを明確にしましょう。

現在活用しているものに○をつけ、利用内容や利用していない場合はその理由や予定を記入しましょう。

	社会資源	活用○	利用内容、利用していない理由、活用予定など	
相談先	地域包括支援センター		存在を知らない。	
	社会福祉協議会		存在を知らない。	
	行政(障害福祉・高齢福祉の窓口)		本人が福祉関係で働いていたので相談しにくい。	
	医療	病院		
		認知症疾患医療センター		
	保健センター・保健所		障害者手帳や年金の手続きが必要	
	在宅介護支援センター		現在サポートしている娘が結婚するので必要	
	介護サービス事業所			
	若年認知症の家族会			
地域の介護者家族会				
就労支援	ハローワーク			
	障害者就業・生活支援センター			
	その他			
経済支援	傷病手当			
	失業保険			
	障害年金		申請が必要	
	特定疾患の公費負担			
	生活保護			
その他	自立支援医療		申請が必要	
	精神障害者保健福祉手帳		申請が必要	
	身体障害者手帳			
	移動支援		申請が必要 家族に頼らない移動が必要	
	就労支援			
	居宅介護			
	短期入所			
	その他			
介護保険	介護保険の申請・認定結果			
	訪問介護			
	訪問看護			
	通所介護(デイサービス、デイケア)		必要	
	ショートステイ			
	小規模多機能			
	その他の介護保険制度			
	日常生活自立支援事業・成年後見制度			

つながるシートを利用し本人、家族の状態を社会活動の場にて評価した。

Cシート)ー① つながるシート(社会サービス利用につながる可能性を検討するシート):社会活動利用版

5:あてはまる 4:だいたいあてはまる 3:どちらでもない 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない

家族

	項目	大	←社会資源利用可能性→	小
1	サービス利用に対する積極性	あり	5・4・3・②・1	なし
2	制度の手続き力	あり	5・4・3・②・1	なし
3	時間の余裕	あり	5・④・3・2・1	なし
4	家族の抱え込みがない	抱え込みがない	5・4・3・2・①	抱え込んでいる
5	家族の困り具合の認識	困っている	5・4・3・2・①	なんとかやっている
6	本人の喜びへの共感	感じられる	5・4・③・2・1	感じられない
7	周囲からのサービス利用への後押し	あり	5・4・3・2・①	なし
8	告知について	本人に言える	5・④・3・2・1	本人に言えない
9	家族会への参加	参加	5・4・3・2・①	不参加
10	思考の整理や決断	整理できる	5・4・3・2・①	混乱
11	他者にゆだねられるか	ゆだねられる	5・4・3・2・①	ゆだねられない
12	世間体や外聞を気にする	気にしていない	5・4・③・2・1	気にする
13	地域の人に公表している	している	5・4・③・2・1	していない
14	経済的余裕	あり	5・4・③・2・1	なし

本人

	項目	大	←社会資源利用可能性→	小
1	家からの外出	好む	5・④・3・2・1	好まない
2	家族がそばにいても落ち着く	落ち着いている	5・4・3・2・①	落ち着かない
3	皆と一緒にの飲食	できる	5・4・3・②・1	できない
4	トイレ(介助しても)	行ける	5・4・3・②・1	我慢
5	希望を言える	希望を言える	5・4・3・2・①	希望が言えない
6	できないことを隠さない	隠さない	5・4・3・②・1	隠す
7	人に頼れる	あり	⑤・4・3・2・1	なし
8	意欲	あり	5・4・3・②・1	なし
9	自分なりに利用する意味がある	あり	5・4・3・②・1	なし
10	本人が気に入らない	気に入る	5・4・③・2・1	気に入らない
11	自分に合っていると感じている	あり	5・4・③・2・1	なし
12	集中できる	集中できる	5・4・3・②・1	集中できない
13	楽しめる	楽しめる	5・4・③・2・1	楽しめない
14	笑顔などの良い表情	あり	5・4・3・②・1	なし
15	ポジティブな感想(満足感)	あり	5・4・③・2・1	なし
16	緊張し動作のぎこちなさ	なし	5・4・3・2・①	あり

Cシートを用いた評価から気付いたこととして、夫は娘が見ればどうにかなるのではないかと思っており、次の課題があると感じた。

①手帳、年金、介護保険の手続きをしていない。

②夫は説明に対してどれくらい理解できているのかが分からない。何度も同じ質問を繰り返し聞かれる。

③本人は、一緒に来た娘に頼りすぎている。

③トイレ、作業場面より娘は干渉しすぎなのではないかと感じる。もっと、本人にできることがあるのではないかと思われる。

以上の結果から今後の支援の方向性を次の通りとした。

家族に対して：手帳、年金、介護保険の申請などができるように支援が必要である。

本人に対して：もっと力を持っていそうだが、自信がなさそうを感じる。作業を一緒に行う中で、本人のできること、好きなこと、支援が必要なことなどをアセスメントし、家族にもサポート方法を理解してもらう。本人ボランティアなどに定期的に参加してもらう。

支援実施6ヶ月後の社会資源の活用を次ページに、8か月後のCシートの状態を次々ページに示す。社会資源利用の可能性について太字で数字に○がついているものが、支援前に比較して支援の可能性が向上している項目である。家族および本人について、複数の項目で利用の可能性が向上していることが分かる。

A～Cシートを用いて検討を行い、支援を実施した結果、サービスを利用したい気持ちが、本人にもでてくるようになり、デイサービスを利用できるようになった。また、本人が以前より娘を頼らなくなった。娘が手伝おうとすると、自分でやると言うようになった。

社会活動の場にて評価、支援を実施したことにより、トイレ動作は自分で可能であることがわかった。また、作業をする日によって眠気が強いと全く作業ができないこともわかった。これらの情報は利用するデイサービスにも伝達を行った。

さらに今後の方向性としては、娘の結婚によって、支援できる時間が減少する可能性が大きい。そのため、現在利用している介護保険のサービスの利用を続けられるようにすることが必要である。

認知症の進行が見受けられるため、社会活動の場への参加は継続し、作業を一緒に行う中で、本人のできること、好きなこと、支援が必要なことなどをアセスメントすることが継続的に必要な状態である、娘の結婚によって減る支援をどのように行っていくか、家族、本人とともに話し合う本人ボランティアなどに定期的に参加してもらうこととする。

Bシート) 社会資源活用について

6 か月経過後

これから活用を促進したいものを明確にしましょう。

現在活用しているものに○をつけ、利用内容や利用していない場合はその理由や予定を記入しましょう。

	社会資源	活用○	利用内容、利用していない理由、活用予定など	
相談先	地域包括支援センター			
	社会福祉協議会			
	行政(障害福祉・高齢福祉の窓口)			
	医療	病院		
		認知症疾患医療センター		
	保健センター・保健所	○	自立支援の申請支援	
	在宅介護支援センター			
	介護サービス事業所			
	若年認知症の家族会			
地域の介護者家族会				
就労支援	ハローワーク			
	障害者就業・生活支援センター			
	その他			
経済支援	傷病手当			
	失業保険			
	障害年金	○	申請中	
	特定疾患の公費負担			
	生活保護			
その他	自立支援医療	○	利用	
	精神障害者保健福祉手帳	○	取得	
	身体障害者手帳			
	移動支援	○	申請。保健センターでの協議に時間がかかった	
	就労支援			
	居宅介護			
	短期入所			
介護保険	介護保険の申請・認定結果	○	ケアマネも決まり本人の意思でデイサービスを利用	
	訪問介護			
	訪問看護			
	通所介護(デイサービス、デイケア)	○	利用。他の利用者との関係も良好である。	
	ショートステイ			
	小規模多機能			
	その他の介護保険制度			
	日常生活自立支援事業・成年後見制度			

Cシート)－① つながるシート:社会活動利用版 支援8か月経過後

5:あてはまる 4:だいたいあてはまる 3:どちらでもない 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない
 家族

	項目	大	←社会資源利用可能性→	小
1	サービス利用に対する積極性	あり	⑤・4・3・2・1	なし
2	制度の手続き力	あり	5・④・3・2・1	なし
3	時間の余裕	あり	5・4・③・2・1	なし
4	家族の抱え込みがない	抱え込みがない	5・④・3・2・1	抱え込んでいる
5	家族の困り具合の認識	困っている	5・④・3・2・1	なんとかやっている
6	本人の喜びへの共感	感じられる	⑤・4・3・2・1	感じられない
7	周囲からのサービス利用への後押し	あり	5・④・3・2・1	なし
8	告知について	本人に言える	5・④・3・2・1	本人に言えない
9	家族会への参加	参加	5・4・3・2・①	不参加
10	思考の整理や決断	整理できる	5・④・3・2・1	混乱
11	他者にゆだねられるか	ゆだねられる	5・④・3・2・1	ゆだねられない
12	世間体や外聞を気にする	気にしていない	5・④・3・2・1	気にする
13	地域の人に公表している	している	5・4・③・2・1	していない
14	経済的余裕	あり	5・4・③・2・1	なし

本人

	項目	大	←社会資源利用可能性→	小
1	家からの外出	好む	⑤・4・3・2・1	好まない
2	家族がそばにいても落ち着く	落ち着いている	⑤・4・3・2・1	落ち着かない
3	皆と一緒にの飲食	できる	⑤・4・3・2・1	できない
4	トイレ(介助しても)	行ける	⑤・4・3・2・1	我慢
5	希望を言える	希望を言える	5・④・3・2・1	希望が言えない
6	できないことを隠さない	隠さない	5・④・3・2・1	隠す
7	人に頼れる	あり	⑤・4・3・2・1	なし
8	意欲	あり	5・④・3・2・1	なし
9	自分なりに利用する意味がある	あり	⑤・4・3・2・1	なし
10	本人が気に入らない	気に入る	⑤・4・3・2・1	気に入らない
11	自分に合っていると感じている	あり	⑤・4・3・2・1	なし
12	集中できる	集中できる	5・4・③・2・1	集中できない
13	楽しめる	楽しめる	⑤・4・3・2・1	楽しめない
14	笑顔などの良い表情	あり	⑤・4・3・2・1	なし
15	ポジティブな感想(満足感)	あり	⑤・4・3・2・1	なし
16	緊張し動作のぎこちなさ	なし	⑤・4・3・2・1	あり